

## (財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 CYDビル  
TEL 03-3502-3671(代) / FAX 03-3502-3265  
ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>  
E-mail アドレス ; [gec-adm@ena.or.jp](mailto:gec-adm@ena.or.jp)

## 第 252 号 / 2010. 9

### Index

- 平成 22 年度  
「エンジニアリング功労者賞・奨励特別賞」  
表彰式 報告
- エンジニアリングシンポジウム 2010  
開催案内
- 平成 22 年度  
(財) JKA 補助事業 第 1 回 委員会報告  
□ 管理型処理施設のバイオガス有効活用に関する調査
- 受託事業第 1 回委員会報告  
□ ミュー粒子を活用したマルチ計測機器の開発  
に関するフーズビリティスタディ
- 会員の皆様へのお知らせ  
□ 第 329 回サロン・ド・エナ開催のご案内

## ■ 平成 22 年度「エンジニアリング功労者賞・奨励特別賞」表彰式 報告 ■



増田会長挨拶



受賞者代表謝辞 (株)大林組 藤原 治氏

7月22日(木)17:00から東海大学校友会館(霞が関ビル内)において、平成22年度「第30回エンジニアリング功労者賞」および、昨年度より新設の「エンジニアリング奨励特別賞」の受賞者に対する表彰式が行なわれました。

受賞者は、多数の推薦案件の中から、東京大学名誉教授 小島圭二氏を委員長とする選考委員会の厳正なる審議を経て決定されました。

「エンジニアリング功労者賞」はエンジニアリング産業に関与し、その活動を通じてエンジニアリング産業の発展に著しく貢献したグループ(チーム)および個人を表彰するもので、今回は30回目となります。グループ表彰として11件および個人表彰として4名の方が受賞対象となり、海外におけるエンジニアリング活動を通じての「国際協力」、エンジニアリング産業における技術力の向上や新分野の開拓等の「エンジニアリング振興」、エンジニアリング産業の諸活動を通じて環境問題の改善に大きく

貢献された「環境貢献」および「特別テーマ(中小規模のプロジェクトを対象とした特別枠)」が受賞理由となったものです。

また、昨年度から新設された「エンジニアリング奨励特別賞」は、商業的実用化が期待される先駆的技術の開発に顕著な功績のあった4件が表彰されました。

(各受賞者の詳細に関しては協会ホームページ <http://www.ena.or.jp/> をご参照ください)

表彰式では、各受賞対象となった事業の概要が会場内のスクリーンに映し出され、当協会増田 信行会長から受賞者の方々に賞状および副賞が直接手渡されました。

表彰式に引き続いて懇親パーティが開催され、お祝いのパーティにご参集いただいた約300名以上の方々に囲まれ、受賞者の方々の喜びもひとしおとなり、各テーブルには歓談の花が咲いて大変なごやかなパーティとなりました。

## ■エンジニアリングシンポジウム 2010 開催案内■

明日の日本が輝くために！ ～今こそ活かそうエンジニアリングのカ～

開催日：2010年10月27日（水）・28日（木）

会場：日本都市センター会館

主催：財団法人エンジニアリング振興協会

後援：経済産業省

協賛：(独)日本貿易振興機構／(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構／日本機械輸出組合／(社)海外建設協会／(社)海外コンサルティング企業協会／(社)化学工学会／(財)機械振興協会／(社)日本機械工業連合会／(社)日本産業機械工業会／(社)日本能率協会／(社)日本プラント協会／(社)日本プラントメンテナンス協会／(NPO)日本プロジェクトマネジメント協会

◆お申し込み方法：

当協会のホームページからお申し込みください。

(<http://www.ena.or.jp>)

### ◆プログラム

10月27日（水） 9：30開場

日本都市センター会館 3Fホール	
10:00	<p><b>開会挨拶</b></p> <p>(財)エンジニアリング振興協会理事長 <b>山田 豊</b> (東洋エンジニアリング(株) 代表取締役社長)</p> <p>エンジニアリングシンポジウム 2010 実行委員長 <b>羽矢 惇</b> (新日鉄エンジニアリング(株) 代表取締役社長)</p> <p><b>招待講演</b></p> <p>「日本のクリーンコールテクノロジーが地球を救う」</p> <p>11:35 <b>北村 雅良</b> 電源開発(株) 代表取締役社長</p> <p style="text-align: center;">昼 休 み</p>
13:05	<p><b>特別講演</b></p> <p>「グリーン産業革命」</p> <p>14:25 <b>佐和 隆光</b> 滋賀大学 学長</p> <p style="text-align: center;">こーひーぶれいく</p>
14:45	<p><b>パネルディスカッション</b></p> <p>「強い日本の実現に向けて～エンジニアリング産業の進むべき道～」</p> <p>パネリスト：<b>市川 雅一</b> 経済産業省 大臣官房審議官（戦略輸出担当/製造産業局付） <b>竹内 敬介</b> 日揮(株) 代表取締役会長兼 CEO <b>林 敏和</b> 川崎重工業(株) 取締役</p> <p>16:45 コーディネーター：<b>猪本 有紀</b> 丸紅経済研究所 チーフ・アナリスト</p>

10月28日(木) 9:30開場

午 前 の 部			
時間	A会場 (我々はどう変わるべきか?)	B会場 (日本の強みを育てる)	C会場 (住みよい地球をつくる)
9:45	<b>A-1</b> 複雑系世界経済と日本の エンジニアリング産業の今後  木下 俊彦 早稲田大学 産業経営研究所 特別研究員	<b>B-1</b> 日本のエンジニアリング業界の 国際競争力  引頭 麻実 ㈱大和総研 執行役員	<b>C-1</b> 21世紀は水の世紀  竹村 公太郎 ㈱リバーフロント整備センター 理事長
11:05	休 憩		
11:20	<b>A-2</b> 社会資本老朽化問題と エンジニアリング業界の未来  根本 祐二 東洋大学経済学部 教授 (公民連携専攻主任)	<b>B-2</b> IBM や Microsoft に負けない 方法 ～日本の強みの活かし方～ 青野 慶久 サイボウズ㈱ 代表取締役社長	<b>C-2</b> 日本の宇宙開発と宇宙技術が 私たちの生活にもたらすもの  中村 安雄 (独) 宇宙航空研究開発機構 技術参与 研究開発本部 本部長代理 宇宙技術統括
12:40			
午 後 の 部			
14:00	<b>A-3</b> スマートグリッドによる コミュニティと企業の戦略  池田 一昭 日本アイ・ビー・エム㈱ 未来価値創造事業 事業開発 部長	<b>B-3</b> 「東京スカイツリー」計画  山本 秀樹 ㈱日建設計 プロジェクト開発部門 企画開発室長	<b>C-3</b> 下水道の真の価値を考える ～持続可能な社会を支える これからの下水道～ 栗原 秀人 メタウォーター㈱ 技監
15:20	休 憩		
15:40	<b>A-4</b> 低炭素都市づくりについて  鎌田 秀一 国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課 企画専門官	<b>B-4</b> 最近のエネルギー政策の 動向について (エネルギー基本計画を中心に)  石崎 隆 経済産業省資源エネルギー庁 需給政策室長	<b>C-4</b> 交流会会場準備 (15:20～17:00)  上記時間帯は交流会準備のため、関係 者以外、当会場には入場できません。
17:00			

※ 講師等の都合によりプログラムが変更されることがありますので予めご了承ください。

**★交流会：10月28日(木) 17:15～19:15 於) 3階C会場**

講演終了後に参加者相互の交流と懇親の場を設けております。

お飲み物・軽食等もご用意しておりますので、シンポジウムでの問題提起を巡る情報や意見交換、ネットワークづくりなどにご活用いただければ幸いです。講師の方々もご都合の許す限り参加される予定です。

**■平成22年度 (財)JKA 補助事業 第1回 委員会報告■**

\* 本事業は競輪の補助金を受けて実施しています。

□管理型処理施設のバイオガス有効活用に関する調査

平成22年度第1回委員会(委員長:中川 加明 研究員)が、7月6日(火)に当協会会議室で開  
一郎氏(財)電力中央研究所 地球工学研究所 上席 催され、実施計画に基づいて調査研究の進め方が

審議されました。

### 1.目的

恒温性や構造体としての利用など地下空間の特性を活用した未利用のバイオマスを対象としたメタン発酵施設の構築と、地域の特性を加味したバイオマスエネルギー貯蔵・供給システムの構築を提案し、その実現に向けた技術的課題や事業性・CO<sub>2</sub>削減効果の検討を行うことを目的とする。

### 2.活動内容

今年度は昨年度に抽出した課題に基づき、下記を実施する。

- (1)未利用バイオマスの地下管理型メタン発酵技術によるエネルギー転換技術の課題の解決及び設備仕様の検討
- (2)バイオガス、発酵残渣の利活用システムの課題の解決及び設備仕様の検討
- (3)モデル地区(奄美大島)を想定した地下管理型処理・資源化システムの構築及び評価

## ■受託事業 第1回委員会 報告■

\*本事業は、(財)機械システム振興協会が(財)JKAの競輪補助金の交付を受け、その財源をもとに受託した事業です。

### □ミュー粒子を活用したマルチ計測機器の開発に関するフィージビリティスタディ

平成22年度第1回委員会(委員長:徳永 朋祥氏 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 准教授)が、7月14日(水)に当協会会議室で開催され、平成22年度の実施計画に基づいて調査研究の進め方が審議されました。

#### 1.目的

都市部におけるインフラの老朽化により、道路下や用地下の地下空洞によって地盤が陥没する事故が発生し、社会問題になっている。また、地下が複雑に利用されてきたので、地下施設の健全性を確保する社会ニーズも高まってきた。これらの背景に基づいて、平成20年度から調査研究を開始し、ミュー粒子を一对のシンチレータ検出器(特許出願中)で計測し、ジオトモグラフィで二次元表示する地下空洞調査技術を開発してきた。

本F/Sでは、従来の物理探査の課題となっている探査深度10m以上、分解能1m程度、振動や電気ノイズ

に影響を受けない空洞探査手法を確立することを目標とする。そのため、ミュー粒子のマルチ計測器を開発し、計測時間の短縮を図り、実用的な計測器の仕様を確立する。

#### 2.活動内容

平成20年度調査研究では計測技術確立のための試作機を製作し、地下で実験を行った。ミュー粒子の角度分布測定を実施し、トモグラフィ解析の予備的な検討を行った。

平成21年度のF/Sでは、機器の最適化のために大きさの異なる2台の試作機を製作した。同時に二次元トモグラフィ解析アルゴリズムを開発した。

今年度は、計測効率を上げるマルチ計測器を開発し、計測時間の短縮(従来の5分の一)を目指す。さらにミュー粒子の三次元的な効果を考慮し、分解能の向上を目指した三次元ジオトモグラフィを開発し、地下環境に適合した実用機の仕様を確立する。

## ■会員の皆様へのお知らせ■

### □第329回サロン・ド・エナ開催のご案内

日時: 平成22年9月15日(水) 16:30~19:00(当協会 6階 CDE会議室)

テーマ: 「スマートグリッドの開発動向と具体的取組み事例」

～メガソーラ事業の経験を踏まえて～

講師: 青木 忠一 殿 NTTファシリティーズ エネルギー事業本部 副本部長

講演趣旨: ホームページをご参照ください。

申込要領: ホームページ(<http://www.ena.or.jp/GEC/>)又はFAXで事務局へお申し込み下さい。

地下開発利用研究センター 事務局 中村 (TEL:03-3502-3671/FAX:03-3502-3265)

※申込者が多数にのぼる場合は先着100名様程で打ち切らせていただきますので予めご了承ください。